

## F-47 デルファイ方式による未来生活の予測

その①家庭の経営・経済生活に関する予測 実践女大家政 海津美代子

目的 本調査研究は、生活指標の基礎資料をうることを目的として、生活全般に対する未来像の予測を、デルファイ方式により行なった。これの実施に当つては、斯界の指導的立場の方々の忌憚のない意見を収集して、その結果を分析・検討し、未来像を量的に把握しようとするものである。

方法 調査の時期は、昭和49年6月21日～7月20日。郵送法によつた。調査対象は、全口在住日本家政学会々員他関連団体の会員約3000名の中から、有意に抽出した指導的立場にある408名である。なお所定の調査全項目88について、記入を依頼した(調査票=全8頁、記入所要時間=2時間ぐらいとみなされる)。

結果 調査票の発送部数408、回収票256、回収率70%弱、集計処理は、①重要度(頻度%)、②実現可能性(頻度%)、③実現の時期四分位( $\frac{1}{4}$ ,  $\frac{1}{2}$ ,  $\frac{3}{4}$ )、④自信度(%)を統計指標とした。また統計表章は、①総平均、②分類別集計平均とし、分類別は、専門分野別(被服=57、食物=51、住居=21、児童=28、教育=21、経営・経済=57、家族=9、その他=12)、年齢別(明・大・昭生)なお、設問項目は88の中、被(14)、食(26)、住(15)、児(2)、教(7)、経(17)、家族(7)の領域別。とくに経営・経済の問題域は、①婦人労働(家庭内外)、②老後生活(福祉)、③コンシューマリズム(流通・信用取引・公害など)、④価値観(物心両文明のウエイト)について、動向を探索した。詳細は後面の都合により割愛する。